

We Are the  
こがねい市民発電 (こがでん)



# 一緒に、 「こがねい市民発電所」 をつくりませんか？

自分には屋根もおカネも十分にはありません。でも社会を変えていこうという「思い」は十分にあります——。そんな一人ひとりの力を集めて、小金井市内に「市民発電所」をつくっていきます。

具体的には…



1  
市民発電所になって頂く  
施設を募集します。



2  
プロジェクトへの参加・寄  
付を広く市民に呼び掛  
け、資金調達をします。



3  
協議の上で、設置者からは発電による  
収入から一定の額を一定期間、こがね  
い市民発電の「市民発電プロジェクト基  
金」に寄付してもらい、次の発電設備設  
置や自然エネルギー普及の活動に活用  
していきます。



4  
設置した場所が地域の環  
境学習や環境情報発信  
の場として機能できるよう、  
サポートを続けます。

『こがねい市民発電』って  
どんな人たちがやっているの？

2013年の夏、環境やエネルギー問題に  
関心を持つ市民たちが集まり、結成しました。

facebookも  
やっています！

[www.facebook.com/kogaden](http://www.facebook.com/kogaden)

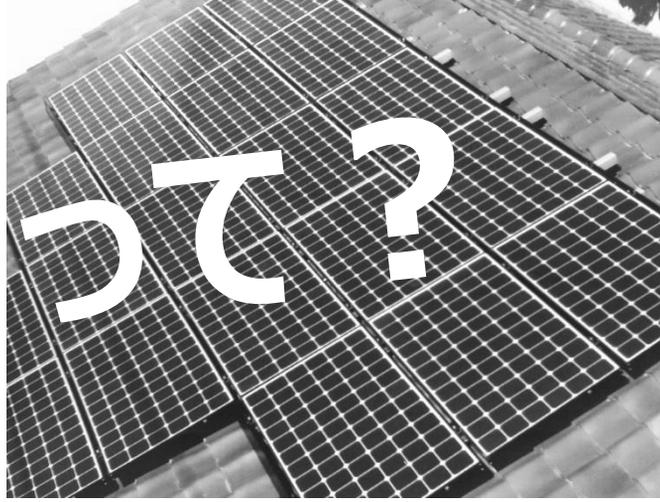
こがねい市民発電のメンバーの多くは、「環境市民会議」「トランジションタウン小金井」などのグループでそれぞれ環境問題に取り組んできました。そのような経験はなく、「自分に今、何かできることはないだろうか」と参加された方もいます。私たちは、私たちの取り組みを、公正で、分かりやすく、だれもが参加しやすいものにするため、NPO法人になることを予定しています。今年中に東京都に申請し、認証が受けられるよう準備を進めています。よろしかったら、私たちの活動に参加してください。<年会費 ¥1,000>

お問い合わせ

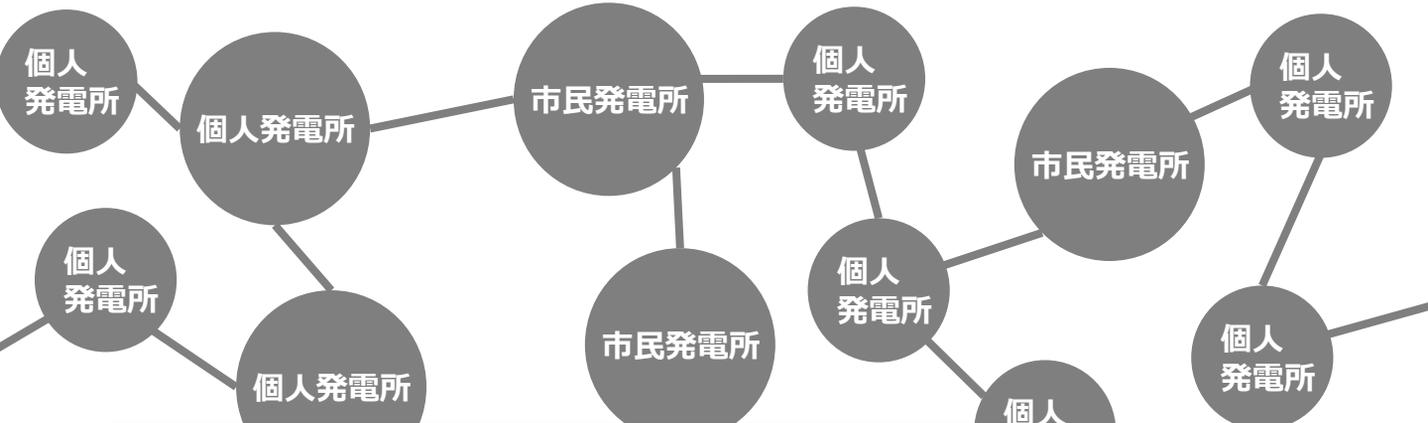
[kogaden2013@gmail.com](mailto:kogaden2013@gmail.com) 「こがでん仲間募集係」まで



# 「みんなde メガソーラー」



私たちがサポートする市民発電所や、小金井市民が自宅の屋根につけている太陽光発電、さらには独立して使っている小さな太陽電池も、「みんなあわせて、計1000キロワットの《仮想メガソーラー》を実現しよう！」というプロジェクトです。



具体的には、HPなどで「ネットワークメガソーラー」への登録を呼び掛け、発電能力の合計と発電状況を公表します。

すでに同じような取り組みを、茨城県水戸市が自治体としてはじめています。水戸市は、市内の家庭と事業所などの太陽光発電システムを一体と考え、仮想の「メガソーラーみと発電所」として位置付け、市のページで発電能力の合計や、発電状況などを公表しています。水戸市民の自然エネルギーへの関心を高め、太陽光発電所の規模を拡大するのが目的です。



**こがねい市民発電は、市民のイニシアチブによって、  
仮想「メガソーラー発電所」を小金井市内で実現していきます。**

**「わたしたちのすることは 大海のたった一滴の水に すぎないかもしれません。  
でも その一滴の水があつまって 大海となるのです」(マザー・テレサ)**

同じ思いを持つ人たちが集まり、小金井市内に市民出資による「市民発電所」をつります。その「市民発電所」の発電能力は、普通の家3世帯分ほどの10キロワットかもしれません。「へえ、これで市民発電所なの?」。その話を聞いた人はげげんに思うかもしれません。自然エネルギーの飛躍的な普及を疑問視している人たちは、冷ややかに笑うかもしれません。でも、聞いてください。この「市民発電所」と同じ規模の市民発電所が100か所できると、それはメガソーラー(1000kw以上)になります。分散型のメガソーラーが誕生したことになるのです。そのメガソーラーが日本列島の各地で1000か所できたら、原発1基分(100万キロワット)の発電容量を持つことになります。すでに日本では再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が始まった2012年7月から2013年10月までのわずか1年3か月で、56万キロワットの太陽光発電が運転を始めました。太陽光が、原発6基分に相当する電力を生みだしているのです。もう今の時点で原発6基分の発電容量を持っているのです。東日本大震災と福島第一原発事故から、私たちは何を学ぶべきでしょうか。とりわけ自分たちが暮らしている地域から遠く離れ、私たちの視野に入っていない場所から電力を供給してもらっている東京都民にとって、その問いかけは切実でなければなりません。私たちは、私たちの暮らすこの地域で、私たちの手による「市民発電所」を少しずつ、粘り強く立ち上げようと思います。それが私たちに向けられた問いかけに対する、一つの答えだと思ふからです。私たちは「一滴の水」かもしれません。しかし、私たちはそれが大きな海へとつながることを確信しています。